

代謝低い慢性便秘 大黄処方は慎重に

Q 四十六歳、女性。食欲はあり肥満ぎみですが、便秘で困っています。腰から下が冷え、上半身はのぼせます。内科の便秘薬や大黄甘草湯（だいおうかんぞうとう）という漢方薬も服用しましたが、おなかがキリキリ痛んで快便になりません。よい漢方薬を教えてください。

処方を用いると、おなかが痛むか、ひどく下痢をすることが多く、慎重に使う必要がある。きやしゃで胃腸の弱い中高年層の便秘も同様に大黄が適さないことが多い。

A 慢性の便秘で悩んでいる女性はたいへん多い。運動不足、偏った食生活などの原因が考えられる。腫瘍（しゅよう）などの病的な原因ではなく、腸のぜん動運動が低下して起きる便秘には、大黄という優れた植物性緩下剤があり、

質問者のように冷え、のぼせがあり、更年期の肥満傾向の方には大黄の入らない処方ですぐに便通をつけることを考慮する。内臓の冷えからくるぜん動の低下の場合には五積散（ごしゃくさん）をまず勧めたい。のぼせが強いなら女神散（にょしんさん）か加味逍遙散（かみしやうようさん）も考えられる。

新陳代謝の活発な方には使いやすい。

効果が不十分なら、これに潤腸湯（じゅんちやうとう）か麻子仁丸（ましにんがん）のように、

一方、脂肪太りの肥満者や代謝が低くなったためにぜん動が悪いタイプでは、大黄の入った

に、腸に潤いを与えてスムーズに便通をつける処方を併用するとよい。